

甲状腺外科草子 45

古文復習：紅葉のいろ

杉野 圭三

紅葉は古より日本人の秋の主題である。
百人一首にも多くの歌がある。

奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時
ぞ 秋は悲しき (猿丸大夫 百人一首 五)

「萩の黄葉」より「楓の紅葉」の方がよく似合う歌である。猿丸大夫は生没年不明、「何レノ代ノ人トモ知レズ」とされる。



宮島

業平の「ちはやぶる」は映画の題名ともなり、百人一首の代名詞ともなった歌である。業平には有名な歌が多く、一首だけ選ぶのにさぞ苦勞したことであろう。

ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川 からくれなるに 水くぐるとは (在原業平 同十七)



東福寺

京都には紅葉の名所が多く、どこへ紅葉を見に行くか判断に迷うことが多い。場所によっては、観光客が集中し大変な目に合うことがある。以前、通天橋で有名な東福寺に行った時には、ある国（想像に任せます！）の観光客の集団に遭遇し、えらい目にあつた（順番などお構いなしの傍若無人な振る舞いで想像通りの阿鼻叫喚の大混乱!!）。

アクセスの良さから言えば、永観堂がベストである。地下鉄の蹴上駅を下車、南禅寺を経由し、永観堂まで歩いてても時間はそれほど

かからない。紅葉で有名だが、早い時間帯に行けば何とかなる。南禅寺も三門や水路閣など、紅葉の背景に恵まれ、銀閣寺へと抜ける哲学の道を散歩するのも優雅である。



永観堂

百人一首にはこの他に四首取り上げられている。

このたびは 幣もとりあへず 手向山 紅葉の錦 神のまにまに (菅家 同二四)

小倉山 峰の紅葉ば 心あらば 今ひとたびの みゆき待たなむ (貞信公 同二六)

山川に 風のかけたる しがらみは 流れもあへぬ 紅葉なりける (春道列樹 同三二)

嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり (能因法師 同六九)



湯来

五日市水鳥公園

秋の歌で有名な「三夕の歌」には藤原定家の紅葉の歌が選ばれている。

見渡せば 花も紅葉も なかりけり 浦の苫屋の 秋の夕暮れ (藤原定家 新古今和歌集三六三)

源氏物語の「明石」を主題にした歌である。

下紅葉 かつ散る山の 夕時雨 濡れてやひとり 鹿の鳴くらむ (藤原家隆 同四三七)

紅葉の歌は多いようで、意外と少ないように感じる。あまりにも定番すぎて、詠みにくいかもしれない。

参考文献

百人一首. 古今和歌集、新古今和歌集、ビギナーズクラシックス. 角川ソフィア文庫

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年9月29日